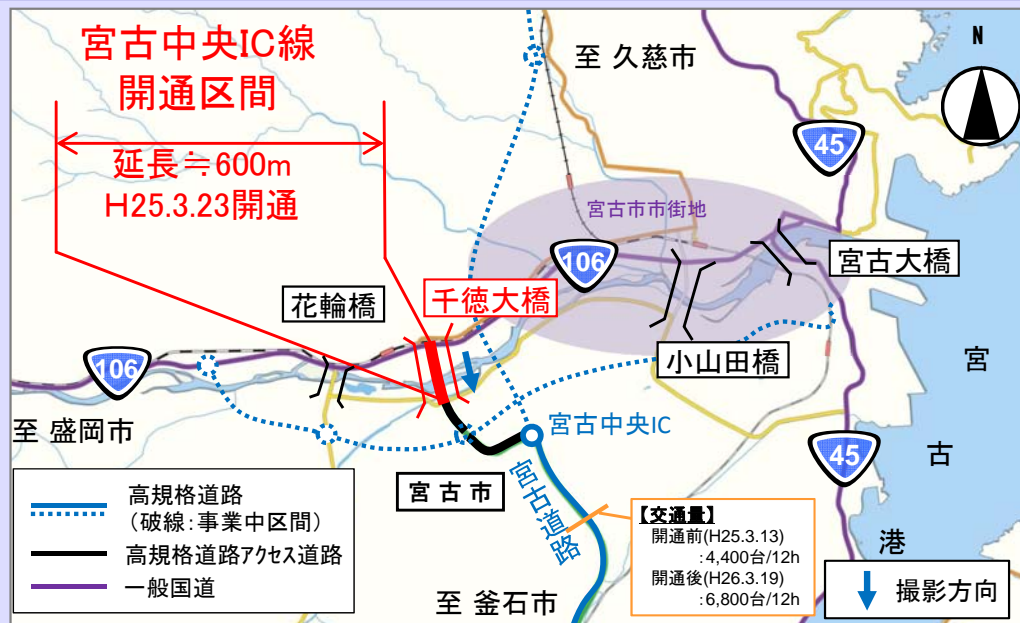


【開通1年後】 三陸沿岸道路

宮古中央インター線が開通して

(平成25年3月23日開通)

- ①復興資材の輸送効率向上で、三陸地域の復興を支援
- ②救急搬送の時間短縮等で、救急医療に貢献
- ③交通の分散により渋滞が緩和し、市内の移動短縮で利便性向上



①宮古道路へのアクセス性向上で輸送時間が短縮、復興資材の輸送効率化により、三陸地域の復興推進に貢献

- ◆宮古道路へのアクセス性が向上し、生コンクリート輸送で効率化
- ◆輸送時間の短縮により、輸送回数・輸送量が増加



▲復興事業への生コンクリート輸送ルートの変化 (宮古市内生コンプラント～宮古市重茂地区)

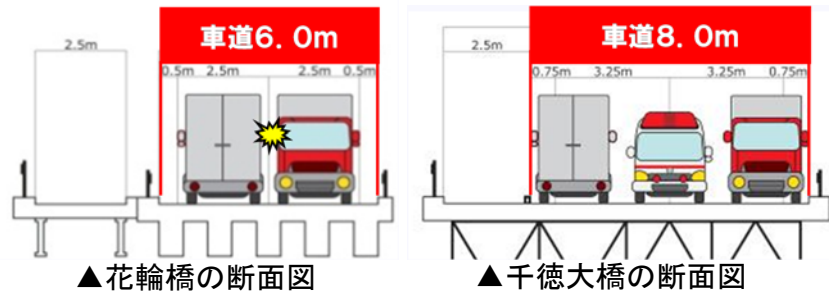
生コンクリート輸送業者の声

- 千徳大橋を使うことで、渋滞を回避して輸送できるようになり輸送時間も短縮したので、1台当たりの輸送回数が増加し、開通前と比べ輸送量が倍増しました。

(H26.3月 生コンクリート輸送業者ヒアリング調査)

②救急搬送の時間短縮とスムーズな進路確保で救急医療に貢献

◆千徳大橋の十分な車道幅員により進路確保が可能に

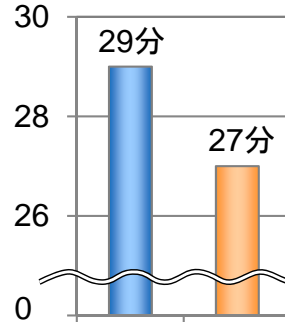
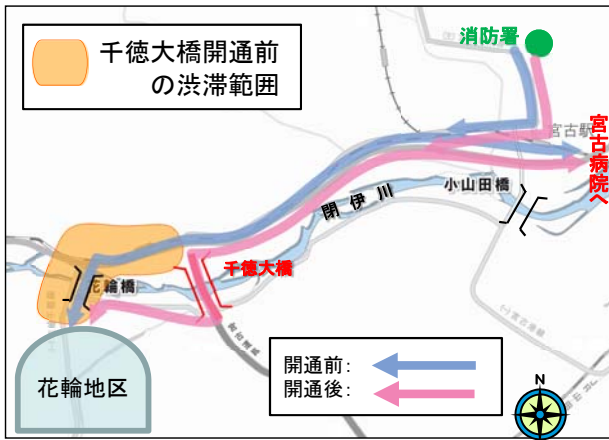


救急救命士の声

- 花輪橋は道路幅が狭く追い越しが出来ず時間を要していましたが、千徳大橋は道路幅が広く進路を譲ってもらうことができ迅速な搬送が可能になりました。

(H26.3月宮古消防署ヒアリング調査)

◆千徳大橋を使った救急搬送で時間が短縮



▲花輪地区の救急搬送時間の变化

(宮古消防署～現場～県立宮古病院)
※宮古消防署実績データ

(開通前:H24年1月1日～H25年3月22日、
開通後:H25年3月23日～H26年3月31日)

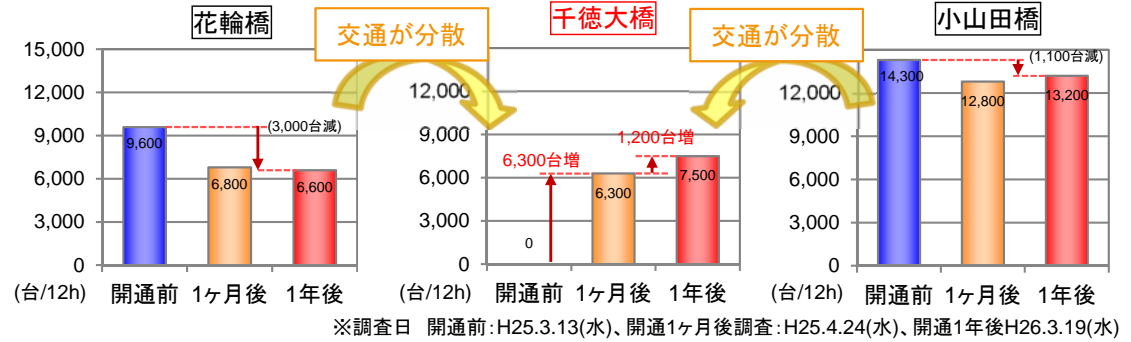
救急救命士の声

- 千徳大橋が出来て混雑なく閉伊川を渡れるようになったため、搬送のほとんどが千徳大橋を使っており、花輪地区から宮古病院への搬送所要時間が短縮され、救命率の向上に繋がります。

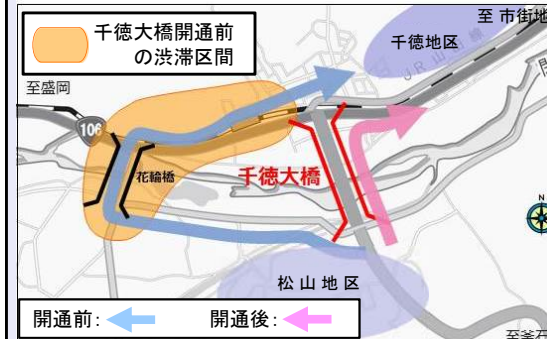
(H26.3月宮古消防署ヒアリング調査)

③花輪橋・小山田橋の交通が分散し渋滞解消。通勤時で約12分の時間短縮となり利便性が向上。

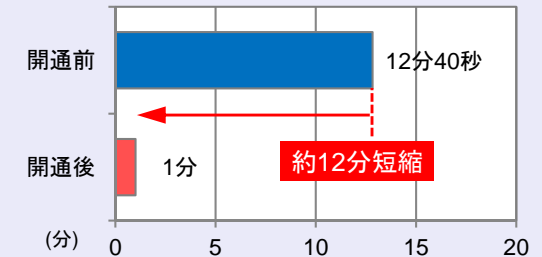
◆花輪橋・小山田橋の交通量が千徳大橋へ分散



◆松山地区～千徳地区の渋滞が解消し、通勤時間が約12分短縮



●通過時間の変化



▲松山地区～千徳地区間、朝ピーク時間帯(8時台)で計測
※開通前:H24.10.30(火)、開通後:H26.3.19(水)

●花輪橋の通行状況

開通前:H24.10.30



開通後:H26.3.19



- 松山方面から市内への通勤で、花輪橋まで迂回し通勤していましたが渋滞で非常に時間がかかっていましたので、千徳大橋ができて15分程度の時間短縮となり、ゆとりを持って通勤できています。

(H26.3月 通勤者ヒアリング調査)